

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築法規						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)／必修科目(建築コース)／選択科目(デザインコース)						
担当者	石田 聖一						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築法規体系の概略およびその理念を理解して、建築士(建築技術士)としての使命感と倫理観を養う(A5)</li> <li>・実例(建築技術の実務内容)と法文を通じて、建築の単体規定と集団規定を理解できる(A5,B1～B6)</li> <li>・建築関係法令集を検索・引用して、基本的な建築士資格試験の問題を解ける(B1～B6)</li> </ul>						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法／法の構成</p> <p>第2回：用語の定義(1)：法規用語、建築物の定義、主要構造部</p> <p>第3回：用語の定義(2)：面積・高さ、延焼のおそれ、敷地・建築面積、床・延べ面積、階数</p> <p>第4回：台風のため休講</p> <p>第5回：一般構造：採光・換気、採光計算、階段、廊下</p> <p>第6回：構造強度：鉄骨造、RC造、組積造、構造計算</p> <p>第7回：木構造：木造、軸組計算</p> <p>第8回：中間まとめ(1)</p> <p>第9回：耐火構造：耐火構造・防災構造、準耐火・防災・不燃、防火・準防火地域</p> <p>第10回：内装制限：大規模木造・界壁、面積・高層区画、竪穴・用途区画、内装制限</p> <p>第11回：避難規定：避難・排煙施設、避難出入口等、歩行距離と避難、避難階段、排煙設備、非常用出入口</p> <p>第12回：道路と建築制限：道路の定義、道路と敷地、用途地域、建蔽率・容積率、緩和規定</p> <p>第13回：高さの制限：3つの高さ、道路斜線、隣地北側斜線、緩和措置</p> <p>第14回：その他の関係法：都市計画法、建築士法、建設業法、ハートビル法ほか、各種法手続き</p> <p>第15回：総合演習と解説：第1～14回までのまとめ</p> <p>第16回：定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験	15%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	25%					
授業到達目標の達成度	<p>受講者67名のうち、不合格者は1名、合格率は99%であった。</p> <p>建築士としての使命感、倫理観についてはまだまだ学生にリアリティがなく、どこまでどの程度伝わったか評価がむづかしい。しかしながら試験結果を見る限りは、建築法規という広範で多岐にわたる内容の概略は理解されたと判断している。</p>						
反省点	<p>初年度であった2015年は詰め込みすぎた感が強かったため、本年は項目を少し絞り込んで多少ゆとりのある進行を心がけた。各項目ごとに内容の掘り下げを行う余裕はできたが、受講者の興味の深まりと合致していたとはいえない状況であった。</p>						
来年度の計画	<p>本年同様、講義の時間中に法令集へのアンダーライン引きなど手を動かす時間を設けることを継続していくが、次回関連条文中で実施する事で自学自習意識の高まりにつながるような構成を計画したい。</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>総合評価は8.3点で全科目平均の8.2点を0.1ポイント上回った。昨年度は平均を下回ったのであるが、前述のように若干ゆとりのある進行を心がけたことが功を奏したのではないかと感じている。</p> <p>項目別では「授業への集中」「自学自習」「教室の設備・環境」が全科目の平均値を下回った。前2者は建築法規に興味を引かせられなかった結果であろう。来年度は改善したい。「教室の設備・環境」については平均を下回ってはいるが、本年度は講義室を受講人数に応じた小さな教室に変更していただいたおかげで、昨年度より0.3ポイントも上昇する結果となった。</p>						
履修登録者数	67名	定期試験 受験者数	67名	合格者数	66名	合格率	99%